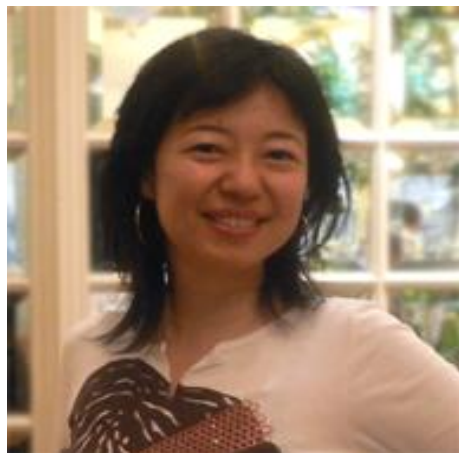


私がこの研修を応募した一番の動機は、海外の聾の友達と交流をしてみたいと思いました。また、聾のリーダーシップの研修であり、今まで生徒会、学生会などを活動してきたが、今まで、満足するような活動は出来なかったのです。

このリーダーシップを通して、自分も、みんなも満足行くリーダーシップをやりたいと思ったからです。

私を含め、4人が日本代表に決まり、聾リーダーを紹介する事から私たちの勉強が始まります。日本が紹介する聾リーダーは、私たちにとって身近で、海外との交流を提供してくれた、またASLを教えてくれた高村真理子先生を選びました。

そこで、一番苦労したのは、一人一人の発表内容を英語に翻訳する事でありました。英語が苦手な私は、電子辞書を駆使し、先生に訂正してもらいながら作り上げました。やはり、中学生の時からしっかり勉強するべきだと感じました。



高村真理子さん



自己紹介ゲーム、右はロシアのニコライさん

イギリスで他の国々の人たちと合流します。しかし、他の人とのコミュニケーションをとることに自信がなく、なかなか声をかけられなかった。話せるようになったのは、自己紹介ゲームをやったときでした。もし、自己紹介ゲームがなかったらコミュニケーションが取れない状態のまま終わってしまったと思います。

講義の内容はすべて新鮮で魅力がありました。私が一番印象に残ったのは、「聴覚障害者のリーダーを育てるには」という講義です。それはAlanさんとVickiさんが活動をしてきたこと内容です。活動していた団体が多く、中には国際的組織活動もやっていたようです。この二人の言葉で心に残ったのは「失敗から学ぶ」でした。私にとって、Alan

さんは尊敬する人です。そのとき、初めて聾の尊敬する人を見つけました。日本にいる聾者達も、尊敬する聾者を見つける事が聾の社会を支える事につながると思います。

他にも、覚えきれないほどたくさんの知識を得られました。聾のリーダーシップをとること、健聴者との対応方法、目標の設定方法、コミュニケーションなどと、1週間で多くのことを学びました。いろいろな国の情報、聾に関する情報が濃縮されていたのは、PENインターナショナルだから出来たことだと私は思います。私たちが得た知識を、日本にいる聾学生達に提供しなければ、もったいないと感じました。



左から私、Alanさん、Vickiさん



友達は宝である

りすることで、さまざまな問題を解決する事ができます」それは講義でも重要であることを強く言っていました。

私は日本の友達だけでなく、この機会を得た友達も永遠に付き合っていきたいと思いました。

貴重な機会で学んだことを生かして、少しずつ活動を進めて行きたいと考えています。

また、アメリカ、ロシア、フィリピン、中国の聾学生と交流も貴重な体験でした。イギリスへ行く前は、一度に日本語、英語、ロシア語、中国語と4カ国語を話し合うというイメージがありました。しかし、実際には身振り手振りで通じます。ASLが通じなければ、ジェスチャーをつかってコミュニケーションをとりました。

「友達と情報交換したり、相談した



最終日のパーティで